夕張市の事例から、地方自治と地方財政のあり方を考えさせる

法則化中学／紫音　田中繁一（E-mail:shige-ichigo-ichie@osaka.zaq.jp）

花畑牧場、夕張メロン、メロン熊の画像を提示する。

発問１「ある地域に関連するものです。どこですか。」

夕張市

発問２「これらの中で、最も古くからあるのはどれですか。」

挙手で問う。
花畑牧場（1992 年～、夕張工場は 2009 年～）
夕張メロン（1961 年～、全国出荷が可能になるのは 1982 年～）
メロン熊（2009 年～）
ということで、夕張メロンになる。

発問３「夕張メロンが生まれた後、夕張市は人口が増えましたか、減りましたか。」

挙手で答えさせる。
減った。（最も人口が多かったのは、1960 年）

発問４「1960 年頃、夕張メロンが生まれる前の夕張市です。夕張市の人々は、何をして生活していたのですか。」

石炭を掘って生活していた。

発問５「しかしこの頃から、石炭を掘る生活は成り立たなくなっていきました。なぜでしょうか。ノートに書きなさい。」

エネルギー源が石油から石炭に代わったから。

説明１「その後、夕張市はさびれていきました。」

指示１「当時の夕張市長、中田鉄治です。彼の考えを読みましょう。」

「分不相応の投資をしなければ、夕張市は再生しない。」

発問６「夕張市の再生のためにはお金が必要でした。中田市長は、そのお金をどこから得ようとしたのですか。ノートに書きなさい。」

国からの援助

指示２「夕張市の助けになる法律がありました。読みましょう。」

産炭地域振興臨時措置法
第７条　国及び地方公共団体は、実施計画の円滑な実施を図るために必要な工場用地、道路、港湾施設、工業用水道その他の産業関連施設及び職業訓練を行なうための施設の整備の促進に努めるものとする。
一部を省略してもよい（参考：http://www.houko.com/00/01/S36/219.HTM）

説明２「この法律に基づいて、夕張市は国の手厚い補助を受け、次々と施設を作っていきました。」

例を挙げる。

1980 年	夕張市石炭博物館	14 億 8300 万円
1983 年	石炭の歴史村（遊園地）	32 億 3000 万円
1985 年	めろん城	6 億 5000 万円
1988 年	ロボット大科学館	8 億 5000 万円
2002 年	マウントレースイスキーリゾート	26 億円

発問７「これらの努力の結果、夕張市は発展しましたか。」

挙手で問う。
人口の推移のグラフを見せる。
（出典：http://www.city.yubari.lg.jp/contents/tokei/jinko/suii/pdf/suii.pdf）

説明３「結局、建造物が増えただけに終わりました。そこに追い打ちがかかります。」

もう一度、産炭地域振興臨時措置法を提示する。

説明４「この法律は、2001 年までだったのです。」

発問８「この後、夕張市を再生するためのお金はどうやって調達したのですか。ノートに書きなさい。」

地方債（借金）

説明５「こうして、夕張市は“財政再建団体”として、破産したのです。」

発問９「夕張市の破産を招いたのは誰ですか。ノートに書きなさい。そう思った理由も書きなさい。」

指名なし発表させる。

説明６「国の補助金を大量に要請した市長、それを認めた地方議会、それに投票した市民、それぞれに痛みが伴いました。」

市長の月給が大幅に減ったこと（862000 円→431000 円→259000 円）
夕張市議会の定数が半減したこと（18 人→９人、議員報酬も 311000 円→180000 円）
公共施設の削減や除雪などのサービスが低下したこと

説明７「自分たちで自分たちのまちをどうやって作っていくのかが、今、問われています。」